

榎戸の春祭り(飾り馬の奉納神事)は色々な資料から推察すると、二つ目の経石塔が建立された安政6年(1859)頃に始まったものと思われます。

現在、大太鼓車に飾られている神輿風の社殿が保管されていたことから考えると、当初は「獅子」を奉納する神事を行っていたと思われます。村民の安穏と五穀豊穰を祈願し、ぼんねん馬・やなぎ馬・さくら馬に御幣や飾り花を飾り付け、神明社から経石塔までお神楽演奏し、練り歩きます。(現在の出発地は公会堂)

榎戸の春祭りは、一般に言う「おまんと祭り」(馬の塔・御馬頭・御馬塔などと書く)。

「おまんと」は、鞍に標具(だし)と言われる御幣や造り物を立てて、豪華な馬具で飾った馬を寺社へ奉納する行事で、駆け馬を伴うところが多いのですが、榎戸も昭和34年9月26日に襲来した「伊勢湾台風」により甚大な被害を受け、翌年から「飾り馬奉納神事」が中止になるまで駆け馬が行われておりました。

駆け馬は午前①「石杵」(イシイル)から「墓下」(はかした)までの砂浜を数回神馬三頭が疾走。午後からは②龍雲寺参道を数回神馬三頭が疾走。

①は経石塔に対して、新田の堤が切れないようにとの祈りと犠牲者への供養を駆け馬にその願いを込めたと思われます。

②は竹腰三信公に対する新田開発の感謝の行事。このことから、春祭りは「新田まつり」ともいわれていたのでしょうか。

ずっと途絶えていた、榎戸の春祭りが関係者のご尽力によって平成2年4月1日(日)31年ぶりに復活しましたが、駆け馬だけは復活がむつかしく、現在は飾り馬行列のみとなっています。

(寄稿:広報部会 伊藤直)

